

## 平成29年度 第3回精華町総合教育会議 議事録

1 開 会 平成30年3月26日(月) 午前10時00分

閉 会 平成30年3月26日(月) 午前11時30分

2 出席構成者 木村精華町長 太田教育長 松本教育長職務代理  
中谷委員 新司委員 岡島委員 (欠席構成員なし)

3 出席事務局職員

岩橋総務部長 浦本総務部次長 大原企画調整課長

山崎企画調整課企画係担当係長 岩前健康福祉環境部長

岩崎教育部長 北澤総括指導主事 竹島学校教育課長

仲村生涯学習課長

4 傍聴者 なし

5 会議の概要

総務部長から第2回総合教育会議の開会を宣言

ー町長あいさつー

○木村町長

平素は、精華町教育委員会委員の皆様には精華町における教育の振興・発展に対しまして、一方ならぬ御尽力を賜っておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。

太田教育長を代表とする町教育委員会が新制度に移行してから1年が経過いたしました。この間、教育委員会の皆様方には、町立中学校の3校における空調設備や中学校の3学期制への移行など、教育の大きな柱となる教育環境や教育振興の施策を着実に前進していただきましたことに対しましても感謝申し上げますところがございます。

今後の教育施策におきましても、引き続き十分に意思疎通を図り、地域教育の課題やあるべき姿を共有して、共により良い方向に進めてまいりたいと考えておりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

なお、誠に残念なことでございますけれども、中谷委員様におかれましては、今

月31日をもちまして退任されることとなりました。

中谷委員様におかれましては、教育委員として10年もの長きにわたり、本町の教育を支え続けていただきました。これまでの小学校現場での経験、また教育行政の経験から、本町の教育をあるべき姿へとお導きいただき、今ある本町の教育のまちづくりに大いに御貢献をいただきました。これまでの御尽力に対しまして、敬意と感謝を申し上げますところでございます。退任まで、残すところあとわずかとなってまいりましたが、最後までよろしくお願いを申し上げますとともに、退任後も、また何かと御指導いただくこともあろうかと存じますが、体調にはくれぐれもお気をつけいただき、御指導方よろしくお願いをいたします。

さて、本日は学校給食基本構想についてを主な議題としております。これまで議会での議論もあり、町民の皆様から大変注目されているテーマでもございます。学研都市の中心に位置する本町の子どもたちが健やかに育ち、生涯にわたり生き生きと活躍できるための基盤として、この「食」は重要なテーマであると考えております。どうか、本日の会議が有意義なものとなりますよう、活発な議論をお願い申し上げます。開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

—教育長あいさつ—

## ○太田教育長

この1年間、本当に教育行政の展開につきまして、町長をはじめ、町長部局の皆様方には、しっかりと我々を支えていただきましたこと、まずもって厚くお礼を申し上げます。

また、中学校に引き続きましての小学校の空調設備、さらに中学校学校給食への道筋について、積極的な予算を組んでいただき、教育委員会として厚くお礼申し上げます。

本日のテーマでございますが、今、町長のお話にもありましたように、町民の皆さんの学校給食に関する関心、とりわけ中学校給食の実施に関する期待が非常に高まっているというふうに思っております。これを受けまして、町長のほうでは今議会の冒頭の施政方針演説で、中学校給食を大きく前進させる取り組みに真っ正面から取り組むという決意を訴えられていました。

教育委員会といたしましても、学校給食のさらなる充実、とりわけ中学校給食の実現が今日的な重要課題となっているということを踏まえ、次代を担う子どもたちが給食を通してどのような力をつけることが重要なのか、また給食を通じてどのよ

うな地域づくりを進めるかということ念頭に置き、今後の学校給食のあり方を示す学校給食基本構想の策定作業を進めてまいりました。

策定に当たりましては、学校関係者のみならず、保護者、農業団体、食育関係団体、地域自治会などの皆さんに参画をいただき、昨年の8月から検討を重ねてまいりました。

学校給食の推進・充実に当たりましては、町当局の理解と御支援が不可欠なことは言うまでもございません。また、食は、人が生きていく上で基本となる重要な課題であるという認識のもと、精華町食育推進基本方針を定められ、町を挙げて食を通じたまちづくりに取り組まれているところであります。このようなことから、本日は、この基本構想（案）について忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

教育委員会といたしましては、本日のこの議論も踏まえ、明日の教育委員会会議で、基本構想を正式に決定をしてまいりたい。そして、その後の中学校給食の準備の作業に当たってまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願います。

## （２）教育施策について

ー今回は調整事項がなく、報告と意見交換のみのため、設置要綱第4条に基づき司会は引き続き総務部長が行うー

ー報 告ー

学校給食基本構想（案）について

### ○竹島学校教育課長

この構想の策定に当たりましては、学校関係者、保護者、農業委員、食生活改善推進委員、自治会長様など、さまざまなお立場で、これまでに本町のまちづくりの推進にお力添えをいただいております皆様方に本構想策定に向けた検討会議の構成員として、この間3回の検討会議を開き、精華町の子どもにとって、小・中学校9年間を通した給食や食育のあり方、また家庭も含めた食全体のあるべき姿、進むべき方向性などについて熱心に御議論をいただき、このたび、とりまとめていただいたものがこの構想案でございます。

これまで開催されました3回の検討会議の様子を少し振り返らせていただきますと、まず、昨年の8月28日に第1回の会議を開催させていただきました。その中では、これまでの学校給食を取り巻く現状、本町の小学校給食や小・中学校での、学校での食育の取り組みのほか、中学校給食実施に向けた食のあり方懇談会での検討事項、住民の皆さんへのアンケート調査結果などを事務局より報告し、この構想

策定に当たっての基本的な考え方をお示したところでございまして、それぞれのお立場で、検討会議の構成員の皆様からさまざまな観点から貴重な御意見を賜ったところでございます。

そして、11月14日の第2回目の検討会議におきましては、構想案をお示しいたしまして、検討会議でさらに議論を深めていただきました。そして、この構成員の皆様方の活発な御議論、御意見を踏まえ、この構想案が取りまとめられました。

基本理念といたしましては、「子どもから家庭、地域へとつながる「健康」「農」「文化」を守る、みんなでつくる学研都市、精華町の学校給食」とし、この理念のもと、4つの基本目標と6つの基本方針を定めたところです。

これらの言葉の一つ一つには、検討会議の構成員の皆さんの強い、また熱い本町の子どもへの健やかな成長とたくましく生きる力をつけてほしいといった思いや願いが込められており、精華町民全ての願いであります、子どもを守り育てる大人の責務として、生きるための源でもある食を通じてさまざまなことを学び、成長していくには学校、家庭、地域が力を合わせていく必要があるというメッセージが発信されております。

また、食を通じてみんながつながる、健康の源としての食として、農業振興や安全・安心の観点から見た地産地消の推進、郷土料理や行事食などの食文化などの継承、また、今日的課題でありますアレルギー対応などにもできるだけ配慮し、子どもが安全で安心して、そして何といたっても、子どもたち自身がおいしく喫食できる学校給食にすることが一番の願いだという思いでございました。

各構成員様には非常に熱心に熱い御議論をいただいたというところでございます。

あわせて、さらにもう一步踏み込んで、将来を見通して、これから実施する中学校の給食センターには災害など、非常時における防災拠点としての機能や、コミュニティ拠点としての機能など、住民にとっても心強い施設となるよう、幅広い活用などにも言及していただいたところでございます。

最後に、去る2月23日の第3回の会議におきましては、この構想案について、1月12日から2月13日までの1カ月間、広く住民の皆様からの御意見も頂戴したい思いからパブリックコメントを実施したところでございまして、その内容の説明と考え方を整理し、構成員の皆さんと基本構想案について最終のすり合わせを行ったところでございます。

なお、パブリックコメントの実施結果については、4人の皆様から貴重な御意見をいただいたところでございます。

簡単に御意見の内容を紹介させていただきますと、1つには、給食を、何らかのやむを得ない事情により提供できない場合については、保護者の役割なり協力をさせていただくことになることを記載してはどうかというものでございまして、文言を追加させていただいております。

2番目には、給食センターの計画建築面積や適温での給食提供への御心配をさせていただいております、これにつきましては、設計段階で各種調理、配送等の設備を選定する際に十分精査して適切に対応していく考えとさせていただいております。

3番目には、給食を一般の住民の方にも食べていただくなど、コミュニティー拠点のツールとして地域にも拡大してはどうかといったものと、現在の中学校の昼食時間が短いといったことから、給食が実施されるまでの間も含めまして、食事の基本である、よく噛んで食べられる時間などの環境をしっかりと生徒に与えてやってほしいという願いでございました。

この御意見に対しましては、特に喫食時間の一定時間の確保、必要性については御意見のとおりでございまして、大変重要なことでありますことから、この内容につきましても、構想の中に文言を追加させていただいております。特に、中学校の時間割りの見直し等にも影響しますので、そういったことも検討していかなければならないということも記載させていただきました。

4番目の方につきましては、この基本構想案に対する評価と、それに沿って中学校給食の実施を早期に期待するといった御意見でございました。

このように、3回の検討会議を重ねまして、またパブリックコメントも行い、このたび構想案を作成されたところでございますけれども、構成員の皆さんの、学校給食はもとより食のあり方、それからあるべき姿、そしてこだわりといいますか、強く熱い思いや願い、また生涯を通しての食育の推進の大切さなど、この構成員の皆様方のそれぞれの立場で学校給食法、食育基本法の趣旨や、さきの精華町子どもの食のあり方懇談会でまとめられました、食を中心とした健康増進、活気あるまちづくりをつくり上げていこうといった願いに合致した、まさに食への意識の高さと学校給食を通した精華町の子どもへの熱い愛情が会議の中での御発言のあちらこちらに込められており、それらの強い思い、願いがぎっしり詰まったものがこの構想案でございます。

これらの検討会議での主な御意見は、18ページ以降に掲載させていただいております。

事務局といたしましては、こういった御意見を重く貴重なものであると受けとめ、

今後、できるところから一步一步、進めていきたいと考えているところでございます。

また、改めて食の大切さを認識し、次代を担う子どもの健やかな心身の成長と豊かな人間性を育み、生きた教材として学校給食のさらなる充実に取り組んでいかなければならないと決意を新たにしたところでございます。

15ページには、中学校給食に向けての記載もしておりますけれども、今後、義務教育の小・中学校9年間の給食を通したさらなる食育の推進を図ることができれば、精華町教育大綱の基本目標であります、「子どもが輝き、生涯いきいき、人をはぐくむ、学研都市精華町」の実践、充実が図れるものと考えております。

なお先般、町内の3中学校を訪問いたしまして、生徒会の皆さんにもこの構想案に込められた思いなどを説明させていただき、後輩のためにも、今から食の大切さや中学校給食について何らかの取り組みをみずから実践してほしいという旨のお願いと意見交換も行ってきたところでございます。

生徒の皆さんは、やはり食事の時間は楽しい、そしてお昼は楽しい、待ち遠しい、食べることは学校生活、授業はもちろんのこと、クラブ活動を行うためにお昼にしっかりと食べておかないと放課後まで持ちこたえられないといったことを話してくれました。

また、小学校での給食の好きな献立ですとか、家庭からのお弁当の内容、両親への感謝の気持ちなど、素直に率直な食への思いを聞くこともできました。今後も、こういった生徒の思いと大人の思いが一致する、よりよい精華町の学校給食を、この構想に沿って進めてまいりたいと考えているところでございます。

なお、資料2の概要版につきましては、今後、児童・生徒、保護者、教職員、住民の皆さんにもいろんな機会を通じてこの構想を周知し、よりよい学校給食をみんなで作っていく機運を高めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上、学校給食基本構想（案）についての御報告とさせていただきます。

一意 見一

#### ○松本教育長職務代理

初めに生徒全員が栄養バランスのとれた給食をいただくことは、大切なことだと考えています。財源の確保が前提となっていますが、中学校給食実施に向けては、検討すべき課題は引き続き検討を重ねて、生徒たち、また教職員も楽しくおいしく喫食できる給食になるよう願っているところです。

給食について、基本構想検討会議を設置して、組織的に意見を集約されていること、4つの基本目標と6つの基本方針が本当にすぐれた内容であるということ、そして町民の意見等を聞き取ることを丁寧にされていることです。

それから、一番心配なアレルギー対応が小学校で実施されている取り組みを踏まえしっかり明記されおり、引き続き、中学校のほうでも同様にお願いしたいと思います。また、いわゆる地産地消の取り組みも中学校で同様に実施していただきたいと思います。

中学校給食は、授業中や部活動等で活発に活動して、全員がもりもり食べるというのが理想だと思うのですが、ただ、私の経験では生徒全員がそういう状況だったというのはなかったなというように思っています。言いたいのは、残食の問題ですね。これには3つぐらいポイントがあると思うのですが、1つはメニューの問題。かたい食材はあごの発達に良いという話を栄養士さんから聞かせていただいたのですが、多めに残る傾向がありました。2つ目は、男子にも小食傾向の生徒がいるんですが、思春期の女子中学生というのやはり多く食べることを気にする、太ることを気にするとか、小食の場合が比較的男子に比べて多いんじゃないかと思われま

す。それから、嗜好の問題。幼いころからの好き嫌いというのを持っている子が割といます。嫌いなものについて無理やりというのは非常に難しいです。残食ゼロを目標に取り組むとか、指導はするわけですがなかなか難しいというのが私自身の感想です。

昭和50年ごろでしたか、他の自治体の中学校を学校訪問させていただいたとき、玄関の入り口にスローガンがありました。それはどんなスローガンかというのと、「いつも読みかけの本を持とう、〇〇中学校生徒会」というものでした。これは読書指導、読書ウイークの生徒会の取り組みの例なんですけども。それ見て、ええっと思って、校長先生にどうですかと聞いてみたら、読書は確かに多くなったと。例えば、定期健診時に文庫本を取り出して読んでいる生徒が多いなど、生徒会本部の呼びかけもあったし、そういうことに対して取り組みもあったと思うのですが、非常に多くなったということでした。食物ロスに関する指導もこういった切り口をもって展開するのも良いかなというふうに思いました。

それから課題の2つ目で、給食の準備と後始末の時間設定ですが、必ずしも一致しなくてもいいんですが、3中学校の関係職員で話し合うということも大事ではないかと思います。生徒が給食の食缶をとりについて、教室に戻って配ぜんを完了するまでの時間を何分にするかというのは十分に検討する必要があると思います。

学級担任を中心に給食指導に対して教職員の負担は増大するんですが、生徒が準備・後片付けする方法を検討して的確に指導することを十分検討することが必要です。学級の生徒全員がどう協力したら早く終わるかということも含めて検討することが楽しい給食になるし、少しでも教職員の負担を軽減することにつながるというふうに思います。

また、給食配膳員など、教職員の協力体制についても協議しておくことが円滑な給食の運営とあわせて教職員の負担軽減にもつながるというふうに考えます。

それから課題に移りますが、給食に関連した校時の見直しということで、給食の時間、準備や後片付けも含め昼休みの時間を設定する必要があるのですが、5・6時間目の授業開始時刻は給食と昼休みを勘案して設定する必要があり、部活動を含めてその開始が遅くなるというのは、ある程度仕方がないというふうに思います。

それから、給食調理の民間委託に関して、安心・安全がとりわけ前提となっているというふうに思います。大事なことは、民間業者についてよく見きわめることが重要だと思います。小学校給食を民間業者に委託している公立小学校の校長先生に直接聞いたのですが、給食について聞いたら、その校長は、おいしいし、問題ないだろうということをしていました。さらに、業者の職員の勤務状態ですけども、受け持つ作業内容によって出勤と退勤の時間が異なって、時間的に合理的な作業をしているというふうなことでした。また、休暇や忌引もあると思われるんですけども、急な休みに対しても民間業者がその中で対応するというので、これまでのように教頭先生が急いで連絡して調整するという必要がないのもメリットだと話されていました。

業者委託の実施を検討する場合には、既に実施している学校に十分聞いてみると、依頼する業者の安全・安心に関する信頼について実施している教育委員会等とも連絡とって確認等をする必要があるようになってくるというふうに思います。以上です。

## ○中谷委員

私のほうからは3点あります。

まず1つ目ですけども、学校給食の基本構想の1ですね、基本理念、10ページにありますけれども。これは私も基本理念として非常にいいなと思っております。というのは、キーワードが3つありますけれども、子どもから家庭、地域、それから健康、農、文化、最後にみんなでつくるという、この3点のキーワードがありますが、これはまさに精華町がこれから目指していくものと非常に合致しているんで



はないかと思います。やはり、小さい子どもたちから大人までということになりますけれども、それが一貫して子どもから家庭・地域へとつながっていくという、そういうあらわれと。それから、学校給食ですから、どうしても健康だけに目が奪われてしまいますけれども、そのほかに農と文化が入っているというような、これも精華町の特徴かなということをおもいます。それから一番最後は、みんなで作るといところが非常に気に入っています。気に入っているというか、とても良いことだと思います。精華町は、ご存知のように、いろんな学校関係であれば、安全ボランティアの方とか、いろんな各種のボランティアの方が参加されて学校教育を応援されていることはよく見られますし、また地域は地域でボランティアの方とか、そういうさまざまな方が活躍されているということをお考えれば、みんなで作るといのは、やはり精華町の一番良いところではないかなと。それが基本理念にあらわれていることがとても良いことかなおもいました。

それにつながって、この学校給食の一番最後の「食」という漢字ですけれども、これよくよく見れば2つに分かれまして、上のところが「人」と、下のところは「良」と。つまり人をよくするということが食の基本であるだろうとおもいますので、そういった基本的な、子どもたち、大人も含めて、心も体も健康的な、そういう人間をつくるということは食が非常にとても大事なことである。それを、今度は小学校給食、中学校給食の9年間ではありますけれども、一貫した食教育、食の教育に取り組むことができるということとはとてもいいことかなということをおもいました。

今を見ていると、偏食や肥満、アレルギー、先ほどアレルギーの話がありましたけれども、非常に生活自体も変わってきてますし、食べ物の志向も変わってきてます。いろいろと話をする中で気がついたことは、孤食というのはあるらしいんですけども、「孤」は孤独の「食」と、つまり1人で食べるという。じゃあ、1人で食べるの反対は何かと言うと「共食」、ともに食べるという、家族で週何日か食べるってことを共食と言うらしいんですけども。精華町はそういう孤食というのはい少ないとおもいますけれども、ただ、家族団らんで一緒に朝、昼はちょっと難しいとおもいますけれども、夜食べるというのが一番理想的ではないかなとおもいますけどね。そういう家族とともに団らんをしながら食べるということをお大事にしていきたいとおもいます。

もう一つの固食というのは、同じものばかり食べるということらしいです。つまり、ハンバーグならハンバーグ、ずっとね。昔、きのうもコロケ、きょうもコロケというのがありましたけれども、それしかないという時代から、いろんなもの

がちまたにあふれていますけれども、好きなものばかり食べるというんじゃなくて、やはり栄養のバランスを考えた食事をするということは、今後の小・中学校の食育において学習できるのではないかなと思いますので。やはり食というのはとても大事にしていきたいなということが1点です。

それから、2つ目ですけれども、これは食事を提供する側のことでありますが、まず1つは栄養士さんが最新の栄養学を学んで、それを学校給食に反映していただきたいなということを思います。

1つ例を上げれば、「ごま」というのがあるんですけども、ごまはいろんな成分が含まれていて非常に体に良いと言われてはいますが、じゃあ、そのごまをそのまま潰さずに食べると消化しにくい、そのまま通り抜けてしまうという。ごまがよいものだから食べて、結局は消化しないままに終わってしまうという。やはり、すり潰してその成分がより消化されやすいということにもなると思うのでね。そういったことも含めて、先ほどの固食じゃないですけども、同じものばかりではなく、その栄養のバランス、その食材の関係性ですかね、それをあわせた上での献立をつくっていただければいいんじゃないかなということを思います。

それから、3つ目ですけれども、14ページにあります基本方針の4の、災害など非常時における町の防災拠点としての機能というのがあるんですけども、これは阪神・淡路大震災のとき、あるいは東日本大震災ですかね、そのほかにもいろんな自然の大災害が起きたときに、いわゆる炊き出し云々があったと思いますけれども、その中で、そちらへ行かれて実際に現地を視察された方の話ですけども、どうしても食事が偏りがちになると。つまり、おにぎりとか麺類が中心になってくる。つまり、即、体の栄養というか、エネルギーになるので、そういったものになりがちであるということがあったんですね。だから、どうしてもそれは施設がなければ手っ取り早くという形になりますので、それが早いかなと思いますけども、そのことによって健康に不安を感じられる、あるいはまた病気があらわれるということが起きていたということが後になってわかったので。そういう意味では、防災拠点としての施設ということがあると思いますので、バランスのとれたという、これは給食のみならず、万が一の場合、いろんなことが起きてくると思いますので、そういった際にはこの機能が十分に発揮できるのではないかなと思います。過去のそういったものを教訓として今後に生かすということは、大きくできると思いますので、その辺のところを大いに期待したいなということを思っております。

○新司委員

平成23年度から食生活のアンケート調査をスタートして、さまざまな機会を通して、さまざまな人が参加された懇談会とか、協議会、検討会議を重ね、きめ細かく丁寧にこの基本構想に向けて会議を積み重ねてこられたこと、本当に大事なことですし、さまざまな形でかかわっていただいたことを本当に感謝申し上げたいと思います。ここまで来れば、もうあとは中学校の給食が必至という運びになるわけですが、関係者の方の長年の願いがかなったということでは大変嬉しいことであると思います。

子どもたちの給食、食育というのは子どもの健康と未来を担う大切なものだと思います。勉強は勉強、給食は給食ではなくて、それが学校教育の中に含まれた給食でありますし、精華町の教育大綱の中に盛り込まれた内容と本当に合致する、すばらしいものだと思います。

実施に向けては、食に関して本当に正しい理解と判断力を持つことができますし、1番として、健康な体をつくるための食事を考えていくということ。それから、先ほどからも出ていますが、地域の産物で食文化を子どもたちが学ぶということもできると思います。また、精華町でつくられた自然物の恵みを直接子どもたちが受けているということで、恵みに感謝したり、またつくっていただく方々への感謝の気持ちがこの給食を通して育って行ってほしいなと思います。栄養のことはもちろんですが、心も育ていきたい学校給食となるように願っています。

そして、精華町ならではの誇れる給食、精華町の学校で給食を食べて、本当に良い思い出づくりができた、仲間と一緒に同じものを食べて楽しかったということ、勉強とか部活動以外にも給食を通して子どもたちがそういう人とのかかわりを持っていけるものになってほしいと思います。

課題は先ほどから言われておりますが、安心・安全な給食の提供ということも大事だと思います。食物の衛生基準だとか、それからつくる人たち、作業する方たちの衛生、それから給食センターのそういう衛生管理という点では、これからきちんとルール化されていくと思いますが、学校の教育課程をちょっと見ていきますと、給食を、食育を通して子どもたちを育てていくということを言いながらも、なかなか今までのお弁当の時間よりかは、給食になると時間的に大変厳しい教育課程を組まなければいけないということで、時間割りの見直しだとかということが現場の学校では起こってくるのではないかと。また小学校では、子どもたちが当番制で給食を配膳したり、片づけたり、準備したりというのは子どもたちの発達に応じてしていますけれども、中学生だったら、もう半分大人ですからそういうことができるはずで

すけども、それが本当に実施できるかどうか。それから、また子どもたちの衛生面に対する意識が高まっていく中で、そういう給食の準備ができるだろうかということも、これは学校の先生たちの御指導の観点かと思いますが、そういうことも考えていく必要があると思います。

また、給食センターでつくりますので、自校炊飯では、給食ではないので、温かいものは温かいうちに子どもに食べさせてやりたい。冷たいものは冷たいという、そういう適温適食での提供に関連して、子どもたちの口に入るまでの時間がいかに短縮できるか、おいしいものをおいしい時間で食べられるという、そういう給食にしてやりたいなと思っています。

それと、これから基本設計だとか、実施までには時間がかかるとは思いますが、最短で4年ということをお聞きしていますが、少しでも早く実施できたら子どもたちは嬉しいし、保護者の方も同じ思いだと思います。

それから、運動している子はたくさん食べるかといったらなかなかそうではなくて、瘦身願望といいますか、食べたら肥えるからとか、男の子でもそういうことを気にする子どもも最近はあるようです。残食を、残菜を減らすというのは、本当に食物のロスをなくす上では大事ですけれども、子どもたちにおいしいものを食べる、そしてこんな人がつくってくれている給食だから食べよう、人とかかわりの中で、そういうかかわりを持つと、あの人がつくってくれるものは喜んで食べたいな。それから、あの人がつくって、あそこの農家のおじちゃんがつくっている野菜だからきっとおいしいはずだ、そういうことも子どもたちと人とのつながり、ただ学校で食べるだけじゃなくて、そういう生産者だとか、つくってくださる方とのつながりがある中で子どもたちは感謝をしていただけるのではないかと思います。子どもたちが喜んで、精華町の給食が本当に一番だと思えるような給食内容にしてくれたら一番いいかなと思います。

給食実施に当たっては、それぞれの関係機関との連携が大変必要だと思いますし、縦横のいろんな地域の方とか保護者の方だとか、そういう連携を密にしながら給食実施を進めていってほしいなと、そういう思いであります。

#### ○岡島委員

中学校給食ですが、私も保護者ですので、本当に多くの保護者が随分前から中学校の給食は願っていたと思います。今、さまざまな家庭がありますので、やはりお弁当をつくってもらえない子どもというのもいてると思うんです。そういう子も含め、みんなが同じ給食を食べられるということがすごく大きなことだと思っています。

す。

お弁当を朝つくる時間がその分なくなるというだけで、朝に時間の余裕ができるんですね。それは、親にとってもですけど、子どもにとってもその余裕というもの、またそれも大きいんじゃないかなと思います。朝送り出すにも1つ笑顔が増えるんじゃないかな、それぐらい、やはり朝はばたばたしていますので、そういうところでも給食だとありがたいなと思います。

お弁当を毎日つくっているんですけども、夏場はどうしても傷んではいけないというので、保冷剤をたくさん入れて持たすんです、保冷バックに。なのでお弁当が、毎日御飯が冷たいと言って。本当に冷たい御飯がおいしくないんですけども、やはり衛生面を考えると保冷剤を入れないと仕方ないというので。でも、給食になると、温かいものを温かくいただける、それだけでも、子どもたちが食べるという意欲も違ってくるかなと思います。

こうやって、給食が中学校で導入される、開始されることによって、家庭で子どもとの会話、食に対する会話が増えるのではないかなと思うんです。幼稚園に勤めてまして、私も給食をいただいているんですけども、きょうはこんな給食やってんと私が言うと、子どもは、いいな、でも、僕、あしたこの給食やねんみたいな会話ができまして、私も幼稚園の献立表を張ってるんですけども、子どもがそれを見て、いいな、こんな食べるのとか言いながら、そういう会話を楽しんでいます。またこれが中学生になれば、その献立によってはちょっとつくってみたいねんけどとか、つくってほしいなとか、そういう一段階上の会話もふえたりして、食に対して子どもがどんどん意欲的になってくれるんじゃないかなという期待も持っています。そうになると、自分でつくれば残さないということがだんだんわかってくる、どうやってつくられたか、食材も大事にするということがわかってくるんじゃないかなというふうに思っています。

学校の中でみんなで同じ給食をいただいて、栄養もつけて、また頑張ろうみたいな感じですてきな給食ができれば、本当に中学校生活充実したものになるのではないかなというふうに思っています。最短で4年ということで、うちの子が給食をいただけるのかどうか微妙なところですが、少しでも早く給食を実施していただいて、子どもたち、保護者の皆様、子どもは楽しく、親は余裕を持って生活できるとありがたいなと思っています。

#### ○太田教育長

やはり学校給食というものが子どもたちの命を守る、健康を守るということ、そ

れから心を育てるということにつながっていかねばならないという思いを本当に深くいたしましたし、また、町全体がそういう給食の意義をしっかりと受けとめてもらえるようなまちづくりが大事だろうというふうに思いまして、この基本理念に沿った給食実現に向けての取り組みを、教育委員会としてもしっかりとやっていかねばならないというふうに心を新たにしております。

実施に向けて、昼食時間の確保というのは、これは実際問題、なかなか難しい問題があるなど感じています。今、かなり中学校での教育課程がハードになっているんですけど、その中でどのようにして食育に時間を見出していくかというところをしっかりとやっていかないといけない。これをやろうとすれば、やはり、学校の先生方に十分に食育の大切さ、学校給食の大切さということを理解していただく取り組みを今後していかなければならないという思いを深くいたしました。

それと同時に、家庭でも中学校給食が始まるということになってくると、そのことについての大切さ、今出たようなお話をしっかりと理解をしていただくということが必要になってまいります。やはり中学校給食を実施することで子どもたちが食のありがたさを感じる、あるいはそのことによって自分で食の充実を図っていくという意味で、例えば逆の話ですけども、弁当の日を設けるとか、そういう取り組みも必要だと思っていますので、家庭のほうでの理解ということも進めていく必要があると、そんなふうに思っておりますし、何よりも給食はこんな思いでやられるんだということを生徒たちにもしっかりと理解してもらおうということが必要ですので、こういう学校給食基本構想の概要版が出てますけれども、こういったPR活動をこれからしっかりとしていかなければならないかなというふうに思っております。

それともう一点、基本構想では触れられないと思いますけれども、給食費の徴収の問題があると思います。幸い、先ほど聞いてましたら、精華町で給食費の未納という、これ全国的に問題になってるんですけども、精華町としてはそういう悩みというのはいわゆるですね。非常に、皆さん方が学校に対してどういうふうな気持ちで臨んでいただいているかということはその中で伺えるわけですけども、そういう良い雰囲気というのをしっかりと受け継いでいかなければならないと思っております。給食費の徴収ということは非常にいろんな形で労力が要るわけですね。折しも今、教員の勤務負担の軽減問題が大きな教育行政上の課題にもなっているわけですし、この問題をどのようにするのかということですね。これも今後、教育委員会としては考えていかなければならない大きな課題だというふうに思っておりますので、こういった課題につきまして十分、このことも委員会内部でしっかりと検討していき

いというふうに思っております。

以上です。

#### ○木村町長

学校給食基本構想（案）、あるいは基本方針の概要版にはいろいろなことが網羅されておりまして、今、教育長さんや教育委員さんからも評価をいただく中での御発言であったと思っております。こういう面では、これを基本にして前進できることについても非常にうれしく思っているわけでありましてけれども、それぞれ委員の皆さんから、御心配も含めて現状をどう切り抜けるかというようなことをも含めて御意見をいただきました。

特に、私が気になったのは、やはり食品ロスの問題。それは今、精華町でもこういうことをなくそうという環境の大きな狙いもここにおいて運動しているわけでありましてけれども、教育として、食は命につながるということを徹底して指導していくということも重要ではないでしょうか。全ての子どもさんの体力、体型、あるいはスポーツをしているかしていないか、それが均一化することにも問題・課題はあると思っておりますけれども、食は命につながるということを基本にして、どう学校給食を進めていくのか、これはなかなか難しい課題だと思いますが、学校給食事業を行う中でより具体的に進めるときには議論もすべきではないかと思っています。

ただ、好き嫌いでどうこうというのは、これは私はあってはならないと思っています。やはり食の教育、そしてまた調理をいただく人たちへの感謝、あるいは生産者への感謝など、そのためにも精いっぱい食べてもらう、それぐらいのことがなければ、好きなものだけ食べて、嫌なものは食べないということでは、その子の人生にも大きなマイナスになるのではないかと思いますので、これからも議論して欲しいなと思います。

それから、業者委託、あるいは公設公営で実施するとか、様々な議論があると思っておりますけれども、やはり公と民とがお互いに良い部分を出し合うという、そのことが大事であると考えています。

町の保育行政では直営、あるいは公設、民間委託にお願いしているのを比較すると、子ども1人当たりの保育に必要な経費は約10万円の違いがあります。必ず学校給食はそうかということにはならないと思っておりますけれども、相互の良い部分を出し合うということの中でどうなのかという議論もしたいと思っております。

それから、基本構想にもありますし、方針にもありますけれども、やはり食がいかに家族とのつながりを強くしていくか、親への感謝、あるいは、今も御意見あり

ましたけれども、調理をいただく方々にも心から感謝できるような、そういうことが大事ではないかと。それが私は食育だと思っております。

この精華町では、住民要望をいただいて署名をいただいたのは平成25年だったと思います。何としてでも地域社会の多くの人たちの期待にこたえるという、そういう意味からもこの事業化がより具体的になってきたということでもあります。

それから、それぞれいただきました御意見の中にも、やはり保護者もこういう学校給食にただ拍手を送るということ、仕事が楽になるから、あるいは手間が省けるからということではなしに、家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たしながら良い関係の中でこの事業をスタートさせたいということ、私も思っているわけであり、その意味からも、弁当の日などから、子どもさん自身もお父さん、お母さんありがとう、毎日弁当を作ってもらって、私、このように大きくなりましたというようなことにもつながるし、子ども自らも自分で作ることで食の大切さがわかると。あるいは、残菜がこれによって少なくなると。教育委員さんからも指摘をいただきましたけれども、こういうことが考えられないかと。

また、時には精華町の特産であるケールを牛乳がわりに出すというようなことができないうこと。このことがまたケールの産地化につながると。私は、ケールという食材は非常に素晴らしい健康食品だと思っていますので、子どもの成長期には、やはり足腰が強くなる、骨が強くなる、そういう意味からも実証されていますので、そういうことが活用できないかと、こういうことを申し上げたところでございます。

いろいろ申し上げましたけれども、それぞれ委員の皆さんから良いお話を聞かせていただきました。御意見聞かせていただきました。これからも、十分そのことを参考にして、より良いものにしていきたいなど、このように思っています。

## ○太田教育長

町長から今、お話しいただきました点については、いずれも今後、検討していくに当たっての大事な課題だというふうに思っています。

例えば、食品のロスという問題、これはやはり子どもたちが好き嫌いというのは自分で克服していくということを学ぶのもこの給食の場でもあるかと思っておりますので、そういうことが非常に大事だというふうに思います。ただ、様々な体質を持った子どもの問題や国際化の進む中での宗教上の問題といったこともありますので、十分きめの細かい配慮をしながらも、偏食は自分で直していく、それから、これだけ物質的に豊かな社会になる一方、そこに落とし穴もあるわけですから、そういったことについて、子どもたちはしっかりした自覚を持てる指導も大事だと考えています。



こういった課題がたくさんあるというふうに思いますので、この基本構想を土台にいたしまして、教育委員会でもしっかりと今後も議論をしていきたいと思ひますし、何よりも、学校の現場の先生、特に中学校の先生は、人事異動で給食を経験してきている先生もありますが、これもそういう経験をしてきて、給食の大切さということを感じ取っている反面で、やはりしんどい思いもしているわけですね。そのことがマイナスの反応にならないように十分な理解が必要だというふうに思ひますので、幸い、若干まだ時間がありますので、教員の研修なり、いろんな機会を通じまして、まずは先生方の理解をしっかりとさせていただくというように努力をしていきたい。もちろん、それに引き続いて、保護者や生徒の理解ということについても、これもやっていかなければならないというふうに思っております。

#### ○岩橋総務部長

明日の教育委員会の定例会での議論に資するような意見交換とさせていただきます。来年度も、総合教育会議は定例の会議開催としては1学期に1回程度、最低年3回の開催を予定しております。また、その定例会議以外にも重大な事象が発生した場合や、急な状況変化で対処が必要な場合には緊急の会議を開かせていただくこととなりますので、よろしくお願ひします。

それでは、これを持ちまして、平成29年度第3回総合教育会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。